

東京大学地震研究所 研究体験プログラム（2026年夏） テーマ一覧

9 テーマ

	担当教員氏名	日程	研究テーマ	研究内容	定員	研究室情報 URL	備考
1	鈴木雄治郎	8月中もしくは9月上旬の2日間、希望者との協議の上決定	火山噴煙の大規模数値シミュレーション	火山噴煙ダイナミクスに関する数値計算を体験する。噴煙の基礎知識についてレクチャーを行った後、地震研究所のスパコンを利用して3次元シミュレーションを行って可視化までを行う。	2名	https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/yujiro/	
2	武村俊介 加藤愛太郎 伊東優治 Ji Zhang	9月中の3日間、希望者との協議の上決定	地震の震源に関する観測データ解析	地震またはスロー地震の観測記録（地震波形またはGNSS記録そのもの、または地震カタログ）解析を通じて、地震の発生過程や活動様式を探索します。必要に応じて、機械学習による余震の震源再決定やモデルシミュレーション（地震波伝播や地殻変動）による観測記録の再現計算を試みる。	2名	https://sites.google.com/site/takeshun1984/ https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/akato/ https://researchmap.jp/vitoh https://scholar.google.com/citations?user=-oJ7FeoAAAAJ&hl=zh-CN	
3	長尾大道 伊藤伸一	8月-9月中の3日間、希望者との協議の上決定	人工知能を活用した地震研究	国内外における人工知能をはじめとする最先端の情報科学技術を活用した地震研究についての講義を受講した後、サンプルプログラムを使った深層学習モデルを用いた地震連続波形データからの地震検測やデータ同化計算などを体験します。プログラムや地震データの中身まで深く理解できるように進めていきます。	5名程度	https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/naqaoh/ https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/SYNTHA-Seis/	原則として学部1～3年生を対象とする。学部4年生の希望者については受講資格の確認を行い、受講を認めない場合がある。
4	竹内 希	8-9月中の3日間、希望者との協議の上決定	3次元不均質構造を考慮した余震震源分布の推定	近年沖合ケーブル地震観測網データが利用可能になったが、海域特有の強い不均質構造の影響が問題となっている。1次元構造モデルと私たちのグループで推定した3次元不均質構造モデルの両方を利用し4月の三陸沖地震の余震分布を推定し、その結果がどの程度異なるかを調べる。	5名	https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/takeuchi/	
5	加納晴之	3日間程度、希望者との協議の上決定	地震の歴史をまなぶ	歴史時代に発生した地震や火山噴火は、主として歴史資料を解読することで発生日時や場所、現象の規模や推移が明らかにされてきました。地震や火山噴火について書かれた歴史資料の解読を体験していただき、文理融合研究のおもしろさに触れていただきたいと思います。	5名	https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/ykano/	
6	西田究	8月-9月中の3日間程度、希望者との協議の上決定	地震波干渉法	地震波干渉法とは、地震以外に起因する(海洋波浪など)揺れを使った地球内部構造の推定手法です。興味に応じたテーマに沿ったデータを解析することで、実際の研究を体験してみましよう。	3名程度	https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/people/knishida/	
7	石山達也 白濱吉起	9月-10月中の3-4日間、希望者との協議の上決定	変動地形学から探る大地の変動	日本列島は地球上で最も変動の激しいプレート境界域にあります。変動地形学は、変動帯における地表構成物質の構造・分布・年代等から大小様々なスケールの地形の成り立ちや地形形成作用などを解明する学問です。野外で地形・地質を実際に観察して、地形学や地質学の視点から過去の大地震や地殻変動を解読してみましよう。今回は2泊3日程度の野外巡検（北陸・富山トラフ周辺、海陸境界域の活構造を対象）を実施する予定です。	2-3名	https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/people/people000813.html	
8	平賀岳彦 山内初希	希望者との協議の上決定（9月予定）	地殻・マントル岩石の流動を実験室で再現する	細粒鉱物多結晶体（合成岩石）を高温下で変形させ、その間の歪一応力の関係、変形微細構造を解析する	2名	https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/hiraqalab/index.html	
9	新谷昌人 高森昭光	8～9月の3日間程度、希望者と協議の上決定	最先端計測技術で地球の内部を探る	地震や火山噴火などを引き起こす地下の様子を直接見ることはできません。地上や宇宙から様々な機器を用いて観測し、現象を推定します。レーザー干渉法を用いた高感度の計測機器を用いて、実験室でひずみや地震を測る実験を行ない、実際の観測データも見ながら地中で何が起っているか探究してみましよう。	5名程度	https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/arava	